



木刈中タイムズ

No. 21

心身ともにたくましく 自ら学び 共に生きる生徒
—笑顔・感動、はつらつ木刈—

さらなる成長を目指して

印西市立木刈中学校長 泉水 真由美

学年代表に修了証書を授与しました。修了証書の「シュウ」は「終」ではなく「修」の字が使われます。昨年度もこのことは、お話ししましたが、2年生、覚えているでしょうか？「修」という文字を使うのは、それぞれの学年が「終わった」からではなく、各学年の学習内容を「修めた」からです。つまり、修了証書はそれぞれの学年で学ぶべきことが身についたことを証明するものです。皆さんがこうして一年間、学校に通って学習できたのは、家族をはじめとするいろいろな方のおかげです。今日渡される通知表を家族に見せながら、皆さんを支えてくれたことに感謝の気持ちを伝えてください。

各学年代表からは、これまでの生活や学習について振り返り、来年度に向けての話がありました。皆さん個々にはどうでしょうか。4月の自分と今の自分を比べてみてください。同じではないはずです。この一年間で学習したことや行事等で経験したことを通して、さまざまな成長があったと思います。まずは、その自分の成長を認識し、頑張った自分自身を褒めてください。しかし、それで満足しては、次の成長に繋がりません。まだまだ、皆さんには、これからさらに伸びていく力があります。ぜひ、自分の可能性を伸ばすために、努力する気持ちを持ち続けてください。その際に、気をつけてほしいことが2つあります。

1つは、人により適する取り組み方が違うということです。例えば、漢字を覚えるのに、見ていると覚えられるという人と書くことで覚えられるという人がいます。人により適している方法は異なります。自分にあった方法を見つけ、取り組んでいってください。

2つ目は、人により成果への結びつき方は違うということです。周りの人と比べ、頑張っているのに、思うような結果が得られないと落ち込むことがあるかもしれません。しかし、すぐに目に見える成果となって現れる人もいれば、ゆっくり時間をかけて成果が現れる人もいます。頑張った取り組みが何にも結びつかないということはありません。自分自身を成長させる努力を続けていってほしいと思います。そのために、明日から始まる春休みで、自分自身についてよく振り返り、次年度どのようなことを目標に取り組んでいこうか考えてください。

保護者の皆様には、本校の教育活動にご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございました。保護者の皆様の支えがあり、成長を遂げてきた子ども達が、進級し、さらに自分自身に磨きをかけてくれることを期待しています。今後とも、保護者の皆様のお力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

【いじめ相談】

鈴木一成(教頭)・久保谷博(教頭)・菊池秀憲(生徒指導主事)・安西太一
蝦原拓弥・皆川匠・杉森弘美(養護教諭)・太田成美(養護教諭)

【セクハラ相談】

鈴木一成(教頭)・久保谷博(教頭)・岡本里美・賀集瑞帆・宇佐見陽子
杉森弘美(養護教諭)・太田成美(養護教諭)

これまでを振り返って

○1年生代表



この一年間で、私たちは様々な経験を通して成長してきました。入学したばかりの頃は新しい環境に慣れることに精一杯で、不安や戸惑いを感じることもありました。そのため授業中に発表する人が限られていたり、時間を意識して行動することが難しかったりする場面もありました。しかし、学校生活を重ねる中で、クラスの様子は少しずつ変わっていきました。授業では、わからない問題を互いに教え合いながら理解を深める姿が見られるようになりました。また、自分から手を挙げて発表する人も増え、集中して

授業に取り組む環境を作ることができました。

学校行事でも多くの学びがありました。合唱コンクールや体育祭では、目標に向かって励まし合いながら取り組みました。初めは遠慮していた人も周りの声かけによって参加するようになり、仲間との繋がりも深まっていきました。その中で協力することや最後まで努力することの大切さを実感しました。

行事をとおして日常生活にも変化が見られるようになりました。あいさつや声かけが活発になり、明るく楽しい雰囲気でも過ごせるようになりました。また、休み時間と授業の切り替えを意識することで、メリハリのある行動も身につきました。2分前着席や1分前学習をやることで時計を見て生活する意識が高まりました。

もうすぐ2年生になります。クラス替えもあり、新しい仲間との生活が始まります。さらに、新1年生も入学してきます。これまでの経験を生かし、どのような環境でも互いに支え合い、後輩の手本になれるような行動を心がけていきたいと思えます。

入学したばかりの頃の自分たちから、大きく成長できたと実感することができた一年間でした。この一年間で得た経験を胸に、新しいステージでも仲間と共に頑張っていきたいです。

○2年生代表

寒さの中にも春の訪れを感じる季節となりました。振り返れば、この3学期は、私たちにとって1年の集大成となる、極めて密度の濃い日々でした。日々の授業や学校生活、そして数々の行事。その一つひとつに向き合う中で、私たちは目に見える形以上の、確かな成長を遂げることができました。私たちの成長の軌跡を語る上で、欠かせない3つの挑戦がありました。

1つ目は、予餞会です。

これまで学校の顔として私たちを導いてくださった3年生へ、感謝を形にするため、私たちは心を一つに準備に励みました。2年生として、合唱や寸劇に込めた「ありがとう」の想い。当日の会場を包んだ温かな空気と、先輩方の晴れやかな笑顔を見たとき、胸の奥が熱くなりました。それと同時に、今度は自分たちがこの学校の伝統を受け継ぎ、支えていくのだという、心地よい緊張感と大きな責任を肌で感じた瞬間でもありました。

2つ目は、委員会活動です。

私たち2年生が委員長を引き継ぎ、本格的に学校の舵取りを担うこととなりました。これまでは先輩方の背中を追う立場でしたが、いざ自分が組織の先頭に立ち、決断を下す立場になって初めて、その「責任」の重さを痛感しました。委員長として、自らの役割を淡々と、かつ誠実に全うすること。そして、一人ひとりの声に耳を傾け、仲間と手を取り合いながら一つの目標に向かうこと。その地道な積み重ねこそが、学校という大きな組織を動かす、唯一無二の「原動力」なのだ、身をもって実感することができました。

3つ目は、部活動です。

私はバスケットボール部部長として「県大会」という大きな目標に向かって、一生懸命に努力してました。厳しい



練習に、時には挫けそうになることもありましたが、隣には常に励まし合える仲間が存在がありました。

仲間と共に汗を流し、限界に挑んだ経験は、技術を磨くだけでなく、私たちの心を一回りも二回りも強くたくましく成長させてくれました。念願叶い、県大会という大舞台で得た学びを胸に、これからも現状に満足することなく、更なる高みを目指して頑張りたいと思います。

いよいよ4月、私たちは最高学年である3年生となります。各行事や、修学旅行など校外での学習においても常に木刈中学校の顔となることを意識し、行動しなければなりません。これまで先輩方が築き上げてこられた輝かしい伝統のバトンを、しっかりと受け取り、今度は私たちが後輩を支え、この学校を力強く牽引していく番です。3学期に蒔いた成長の種を、次なる1年で大きな花へと咲かせられるよう、そして、より良き学校を築き上げていくために、学年全員で努力していきましょう。

3月の行事

○先輩に学ぶ会（2年生）

3月12日（木）に2年生は、「先輩に学ぶ会」を開催しました。進級を目前にした2年生。受験を意識していかなければいけない時期ということもあり、卒業した3年生の代表生徒4名に時間を作ってもらい、自分達が受験にどのように向き合ったかについて話してもらいました。質問事項も含め、これからどのように過ごしていったらよいのかを考えさせられる時間となりました。



受賞の記録

○男子バスケットボール部

印旛郡市第3ブロック1年生大会 3位

○剣道部

長島杯・英和杯争奪中学校剣道交流大会 女子団体 3位
ちばジュニア剣道強化事業親善試合 男子団体 敢闘賞

○サッカー部

我孫子市招待中学生サッカー大会 優勝

○陸上競技部

南関東中学生陸上競技大会

共通女子走高跳 4位

共通男子走幅跳 7位

共通女子800m 3位

○吹奏楽部

千葉県吹奏楽個人コンクール 銀賞 1名